

胸腔鏡を用いた肺切除術の経験のある
患者さんまたはご家族の方へ
(臨床研究に対するご協力のお願い)

獨協医科大学埼玉医療センター呼吸器外科では、当科で手術された方の病理検体、診療情報（カルテ情報）を使用して臨床研究を実施しております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはございません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧を希望される方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

【研究課題名】

当科における単孔式区域切除導入と従来アプローチの比較検討

【研究の背景と目的】

2021年に発表された大規模臨床研究（JCOG0802）の結果、早期肺癌における縮小手術として区域切除の有用性が示唆されました。肺葉切除術に比べて、より切除範囲の少ない区域切除術の方が予後や侵襲性（身体にかかるさまざまな負担）において優位であることが示され、区域切除の有用性が高まっています。区域切除においても胸腔鏡というカメラやロボットを用いて、より小さな創で行う手術が主流になっており、創の長さや数の違いで、胸腔鏡補助手術（Hybrid VATS：H-VATS）、多孔式胸腔鏡手術 Multiport VATS：M-VATS）などがあり、最近では4cmほどの一つの創で行う単孔式胸腔鏡手術（Uniport VATS:U-VATS）も普及してきています。しかし、これまでに、これら3つのアプローチ方法について予後や侵襲性についての比較検討は行われておりません。当院では2018年から単孔式手術を導入し、区域切除に対しても適応を拡大しています。今回の研究は胸部疾患に対して区域切除を行った方の電子カルテを調査して従来方法（H-VATS、M-VATS）とU-VATSの予後や侵襲性を比較することで、どれが低侵襲アプローチとして有用か比較検討することを目的としています。

【対象となる方】

2018年4月1日から2021年4月30日までの間に、胸腔鏡下肺区域切除術を施行された方

【使用する診療情報】

年齢、性別、身長、体重、既往症、合併症、喫煙歴、癌の進行度（ステージ）、血液検査結果、手術記録、麻酔記録、生理学的機能検査結果、病理結果、術後退院までの期間、ドレーン抜去までの期間

【研究期間と参加予定人数】

この研究は当院臨床研究倫理審査委員会承認日から 2023 年 3 月 31 日まで実施され、28 名の患者さんが対象となっています。

【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除し、収集されたデータは、個人が特定できないよう通し番号などで匿名化されたのちに解析を行います。

また、使用したカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除し、法令等に従って適切に廃棄いたします。

【結果の公表】

研究結果がそろった段階で、学会での発表や、論文の投稿を行う予定です。その際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 呼吸器外科 小林 哲（准教授）

【問い合わせ先】

埼玉県越谷市南越谷 2-1-50

獨協医科大学埼玉医療センター 呼吸器外科 担当者：西平 守道（助教）

電話番号：048-965-4932（呼吸器外科外来） 受付時間：平日 9：00～17：00

以上